

2 のアフリカ子どもの本プロジェクト(JACBOP) 2022 年度活動報告

1、概況

2004年に設立した私たち「アフリカ子どもの本プロジェクト」は、19年目を迎えました。そして、2022年12月にはうれしいことに ENEOS 児童文化賞をいただくことができました（私たちがこの賞の最後の受賞者となりました）。賞金は、現地の図書や備品、修理費などに、有効に活用したいと思います。（写真①）

特にコロナ禍に見舞われてからは、定例会もオンラインとなりましたが、多くの会員や協力者に支えていただきながら

- ① アフリカに設立したドリームライブラリー（現在2館）を継続的に支える
- ② 識字や楽しみのための本を必要としているアフリカの子どもたちがいれば、そこに本を届ける
- ③ 日本の子どもたちにアフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝える

という3つの活動を根気強く続けております。

①については、これまでエンザロとシャンダの二つのライブラリーとの連絡をになったださっていた松田素二先生とオディンガさん、モーニさんにかわって、ケニア在住の稲角暢会員が連絡を担当してくれることになり、おかげで現地の両図書館委員会の方たちと初めてズーム会議をすることもできました。現地のライブラリアンのお給料は社会情勢を踏まえ、増額しました。

③については、やはりコロナ禍で図書展の開催が難しいなか鳥取県ユニセフ協会、鳥取県人権ひろば、板橋区立中央図書館（講演会やワークショップも）、小淵沢（講演会も）で「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」を開催してくださいました。また、おすすめ本も選書会を通して追加し、ウェブに掲載したおすすめ本のそれぞれにはSDGsマークを付記しました。さらに展示セットのパネルやバナーなどを作り直したり、新たに作ったりしました。

2022年度は定例会をオンラインで10回開き、ケニアの図書館の支援、展示セットの見直し、選書などについて話し合いを続けてきました。定例会・選書会のご報告については毎回会員の方にはメールで「プロジェクト・ニュース」を配信し、おすすめ本や図書展については、インスタグラムやフェイスブックでも随時ご紹介しています。

2、会員数

2021年度末の会員数は101名、2022年度末は107名でした。

3、2022年度活動報告(2022.4-2023.3)

3-1 定例会の開催

今年度はオンライン（zoom）で10回開催しました。アフリカへの支援、選書、展示セットの入れかえ、おすすめの本のSDGs表示等を話し合いました。

3-2 ドリームライブラリー等の支援

1) ケニアのドリームライブラリーについて

ケニア西部のエンザロとシャンダにある二つのドリームライブラリーを支えることは、私たちのプロジェクトの3つの柱の1つです。現地にはなかなか行くことができないため、人類学者の松田素二先生に各種経費の送金や現地の情勢の提供や助言、また先生のお仲間である現地のオディンガさん、モーニさんに連絡・調整役として活動していただきました。

松田先生からは2、3年前から後任の支援者への移行をお願いされていたところ、2021年秋にケニアに在住の稲角暢が会員となり、オンラインの定例会に参加するようになりました。2022年9月と12月にはドリームライブラリーを訪問し、現地の様子を伝えてくれました。その結果、松田先生の後任として、11月から給与等の送金や、年2回程度のドリームライブラリーの訪問を実施することで、現地の支援者として活動していくことになりました。稲角会員は2011年からケニア中西部の牧畜民の研究者としてケニアを訪問しており、2017年から2022年3月まで首都ナイロビの「日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター」の副センター長を務めていました。2022年4月以降は、ケニアのバリング郡に在住しています。

(写真④)

稲角会員が9月と12月にドリームライブラリーを訪問した際には、それぞれの図書館のライブラリアン、図書館委員会の委員の皆さんとご挨拶しました。コロナが始まる前に松田先生が現地を訪問されて以来、およそ2年ぶりの日本人による現地訪問が実現し、会員による訪問としては、2015年夏以来となりました。訪問の際には、過去におこなった図書館の修理や改築、電気・トイレなどの工事の跡を確認したり、写真を撮影したりしました。また、過去の書類もスキャンして日本へ送り、のちの定例会で検討を加えました。そして、ライブラリアンや図書館委員会の委員とともに、図書館の蔵書点検をおこない、エンザロ・ドリームライブラリーで1818点、シャンダ・ドリームライブラリーで1412点の蔵書が確認できました。エンザロではやっていないはずの「貸出」が続いていたようで、蔵書数が大きく減っていましたが、返却の催促と禁帯出の徹底をお願いし、今後の改善を待つこととなりました。

2022年度後半からは、現地の図書館とのやり取りも活発化しています。上述の稲角会員の現地訪問時には、ケニア側のライブラリアン、図書館委員会の委員の皆さんと、日本側の会員数名が、Zoomアプリを用いたオンラインでの交流をおこないました。2015年以来久しぶりに顔を合わせた会員もいれば、初めてケニア側の人びとと言葉を交わした会員もいました。今後も継続的に交流を重ねていきたい、と、ケニア側も日本側も前向きに考えています。(写真⑤) また、両図書館からの要望に応え、教科書・参考書を中心に図書の新規購入もおこないました。2023年1月には、エンザロ図書館のために42点、4月にはシャンダ図書館のために93点を購入しました。ほかにも必要な文房具類や本棚の購入や、建物・設備の修理なども、それぞれおこないました。2人のライブラリアンからは、Whatsappアプリを通じて、購入物や修理の様子が写真で送られてきます。ケニアと日本、双方向の要望に応じて、連絡や通信が活発化したように感じます。

2022年に入りケニアでは物価上昇が激しく生活が苦しくなっているという状況を踏まえ、進学に合わせた子どもの教育費の必要から、4月にそれぞれに20,000シリングを2人のライブラリアンに貸付、返済は5月から1年間の分割払いで給料から差し引くことになりました。また5月からライブラリアンの給料アップを実施し、ピーターさんは月額13,000シリング、アイリーンさんは10,000シリングになりました。加えて、医療保険の負担分500シリング、年金の雇用者負担分200シリング、12月からは通信データ料として500シリングをプラスして支払っています。両方の図書館には、毎日の新聞購読料として日毎に30シリング、そのほか、新聞販売店が近くにないエンザロについては、新聞配達料の交通費として1,500シリングを定期的にお渡ししています。コロナ下で密を避けるために行っていたエンザロ図書館の開館時間延長は、ピーターさんの超過勤務で行われていて、利用者の歓迎の声も聞かれましたが、時間延長は5月までとし、6月からは通常の勤務に戻っています。

また、ケニアでの連絡・調整や給料の支払いを担当して下さっていたオディンガさん、モーニさんには交通費や払込の手数料等として毎月3,000シリング、8月からは5000シリングお渡ししていましたが、こちらは11月までとなりました。

それぞれの図書館についていろいろな話し合いをするために、地元では折に触れ図書館委員会が開かれています。遠くから通ってくる委員や、仕事を休んで参加する委員もいるので、お茶菓子代として、図書館委員会が開催されるごとに3,000シリングを援助しています。現地からのレポートでは、2022度中にエンザ

ロ図書館では4回、シャンダ図書館は2回の開催でした。

2004年に設立したエンザロ・ドリームライブラリーと2008年に設立したシャンダ・ドリームライブラリーは、ともに週に5日半開館しています。

エンザロ図書館：火曜～土曜 9:00～17:00 日曜 14:00～17:00

シャンダ図書館：火曜～土曜 9:00～16:00 日曜 14:00～16:00

2022年のドリームライブラリーの利用状況は以下のとおりです。

エンザロ・ドリームライブラリー 報告者：ピーター・インブーカ Peter Imbuka

利用者別人数 (単位：人)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
幼児	521	369	612	492	339	321	401	701	328	358	400	260	5102
プライマリー 生徒	613	392	710	823	691	295	323	621	338	365	341	206	5718
セカンダリー 生徒	445	251	534	741	532	363	209	513	342	245	363	165	4703
おとな	393	378	439	310	801	396	519	810	456	439	553	346	5840
合計	1972	1390	2295	2366	2363	1375	1452	2645	1464	1407	1657	977	21363
開館日数 (単位：日)	26	27	30	26	26	26	24	26	27	22	26	26	312

シャンダ・ドリームライブラリー 報告者：アイリーン・ナムニユ Irene Namunyu Kumali

利用者別人数 (単位：人)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
幼児	52	61	110	105	158	162	150	172	201	207	311	112	1801
プライマリー 生徒	952	1005	1309	1215	1820	1922	2010	1901	1820	1851	1710	922	18437
セカンダリー 生徒	213	125	727	789	510	601	632	520	570	402	306	51	5446
おとな	25	29	152	123	200	199	187	300	310	179	102	22	1828
合計	1242	1220	2298	2232	2688	2884	2979	2893	2901	2639	2429	1107	27512
開館日数 (単位：日)	24	25	23	25	26	26	26	25	25	23	23	23	294

シャンダライブラリー蔵書冊数 (2022.9.13) 1,411 冊

2) アフリカのその他の地域、団体への支援は、今年度はありませんでした。

3-3 アフリカのことを知らせる活動

当プロジェクトが選ぶ「アフリカについて児童書 おすすめリスト」の本等を展示できる「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」は、4箇所で開催していただくことができました。

また、板橋区立中央図書館での展示のあと、図書展名のバナーとタペストリー、展示会あいさつとプロジェクト紹介パネルのタペストリーを作成し、③の展示より展示セットに加えしました。またいたんでいたキャプションなどのパネルも一部、つくりかえました。

① 主催：板橋区立中央図書館 (写真②)

会期：2022年4月24日(日)～5月7日(土)

会場：板橋区立中央図書館1Fホール

こども読書週間のイベントとして企画されました。会員ボランティアのべ24名も協力し、会員を講師と

して、以下の講演やワークショップも開催され、グッズも販売させていただきました。

- 4月24日 オープニング講演会+大人向けブックトーク 講師：福本友美子 参加29名
- 4月30日 子ども向けワークショップ 絵本を読んで、ミニたいこを作ってみよう（2回）
参加親子16組
- 5月5日 子ども向けミニ講演会 講師：ほそえさちよ 対象：小学生 参加32名
- 5月6日 子ども向けブックトーク（3回） 対象：小学生 参加16名
- 5月7日 子ども向けワークショップ 絵本を読んで、おめんを作ってみよう。
参加親子21組

②主催：鳥取県ユニセフ協会

会期：2022年7月23日（土）～8月21日（日）

会場：よりん彩（倉吉未来中心内 倉吉市駄経寺町212-5）

「鳥取でアフリカを感じよう Part2」というイベント名で、主催者企画のワークショップや映画上映など、夏休みのあいだ、さまざまなイベントが開催されました。

③主催：鳥取県立人権ひろば21

会期：2022年11月1日（火）～11月30日（水）

会場：鳥取県立人権ひろば21 ふらっと（鳥取市扇町21番地）

④主催：八ヶ岳南麓有志（写真③）

会期：2023年3月16日（木）～3月20日（月）

会場：旧バウハウス（山梨県北杜市小淵沢上笹尾3332-1149）

プロジェクトの活動に関心を寄せて、読書グループで企画してくださいました。

代表さくまゆみこが、3月19日（日）には会場でアフリカでの活動のこと、3月21日（火）には、別会場で講演をしました。新しいトートバックをはじめ、グッズも販売させていただきました。

3-4 「アフリカに関する児童書 おすすめの本」の選書

・ホームページの「おすすめの本」コーナー、「おすすめの本リスト PDF」には、2023年3月までに選んだ本が入っています。

*選書会を6月～1月に3回開催。

11冊検討し、4冊を「おすすめの本」に入れることになりました。

4冊の解題を分担して執筆し、ホームページにアップしました。

2022年

6月 6冊検討 3冊を「おすすめの本」に入れる。

・『ソフィーの秘密』ニキ・コーンウェル作 渋谷弘子訳 文研出版

・『コーヒーを飲んで学校を建てよう キリマンジャロ・フェアトレードの村をたずねる』ふしはらのじこ
文・絵 辻村英之監修 実生社

・『ノウサギの家にいるのはだれだ？ ケニアマサイにつたわるおはなし』さくまゆみこ再話 斎藤隆夫絵 玉川大学出版局

7月 2冊検討 1冊はシリーズ化を待って検討とする。

2023年

1月 3冊検討 1冊を「おすすめの本」に入れる。

・『サバンナで野生動物を守る』 沢田俊子著 講談社

*選書会で選んだ図書を、講談社、玉川大学出版部、文研出版、実生社の各社（50音順）よりご寄贈いただきました。今後の図書展で展示させていただきます。ありがとうございました。

*昨年度に引き続き「おすすめの本」にSDG sを付ける検討会を行いました。

4月 児童文学の残りを検討。

2月 ノンフィクションについて検討。全体の検討が終了したので、SDG sの目標番号をつけたリストを作成し、全体を見直しました。

3月 ホームページの「おすすめの本」にSDG sの目標マークを付記しました。

3-5 支援グッズの製作・販売（写真⑥）

絵はがき（5枚セット）、トートバッグ、マスキングテープ、Tシャツ、『エンザロ村のかまど』スワヒリ語版、英語版等をネットで販売しています。2022年4月の板橋区立中央図書館、2023年3月の小淵沢の図書展でも販売できました。生成りのトートバッグは板橋で完売したため、新たに、沢田節子会員の協力を得て、前と同じ沢田としき絵のカーキとワインレッドのバッグを作りました。会員にも引き続き販売しています。詳細はホームページ（http://jacop.main.jp/?page_id=70）をご覧ください。

3-6 ホームページの更新

今年度も、メールによるプロジェクト・ニュース配信のほか、ホームページ <http://africa-kodomo.com/>、フェイスブック (<https://www.facebook.com/africachildrenbooks>)、インスタグラム (https://www.instagram.com/africa_kodomo/)等による情報発信を行いました。

ホームページでは、「お知らせ」欄に図書展の情報を、ブログ欄に定例会やプロジェクトの動向を随時としています。また3-4にも書いたとおり、「おすすめの本」に新たにSDG sの目標マークを付記しました。

フェイスブックページでは、2023年6月1日現在、「いいね！」をクリックして下さった方は582名（昨年よりも66名増加）、Instagramでは204名（昨年より13名増加）のフォロワーがいます。今後も活動の様子を伝えていくよう、内容を充実させていきます。

3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールにより、定例会の報告、ケニアのドリームライブラリーの様子、図書展のお知らせ、その他を会員向けに11回発信しました。

4、2022年度決算報告（2022.4.1～2023.3.31）

5、2023年度予算（2023.4.1～2024.3.31）

連絡先

アフリカ子どもの本プロジェクト

〒399-5503 長野県木曾郡大桑村長野 1517-5 さくま方

メールアドレス：amai_3@yahoo.co.jp

ホームページ： <https://africa-kodomo.com>

フェイスブック： <https://www.facebook.com/africachildrenbooks>

インスタグラム： https://www.instagram.com/africa_kodomo/